

令和6年度の二酸化炭素排出量の公表資料について

令和6年度の温室効果ガス排出量(CO₂)を次のとおり公表します。

本計画は令和12年度までに基準年度比で15%の温室効果ガス(CO₂)削減を目標としており、基準年度排出量(970.7t CO₂)に対して目標排出量は(825.1t CO₂)です。

令和6年度の神崎町役場全体の温室効果ガス(CO₂)排出量は979.8[t-CO₂]で基準年度比較+9.1[t-CO₂]。令和5年度比較+120.7[t-CO₂]であった。

このことについて以下の通り分析する。

表1 電気の使用

年度	電気の使用量[kWh]	温室効果ガス(CO ₂)排出量[t-CO ₂]
令和元年度	1,508,211	705.8
令和6年度	1,547,551	666.9
増減	+39,340	▲38.9

表1より、電気使用量の増加が確認できる。これはDX化に伴うOA機器の増加や、会議室等の施設利用頻度の増加によると考察できる。CO₂排出量が減少しているのは、排出係数が基準年度よりも下がっているためである。

表2 燃料の燃焼(公用車を除く)

年度	燃料の燃焼量[L][kg]	温室効果ガス(CO ₂)排出量[t-CO ₂]
令和元年度	87,147.3	218.9
令和6年度	105,758.8	266.1
増減	+14,890.4	+47.2

表2より、燃料の使用量の著しい増加が確認できる。本町では空調にボイラーを使用しているため、夏季の猛暑や冬季の冷え込みによる空調稼働時間の延長が、燃料消費量の著しい増加に直接つながったと推測できる。

表3 公用車の使用による燃料の燃焼

年度	燃料の燃焼量[L]	温室効果ガス(CO ₂)排出量[t-CO ₂]
令和元年度	18,530	46.0
令和6年度	18,664	46.7
増減	+134	+0.8

表3より、公用車の使用による燃料使用量の微増が確認できる。これは各種団体や職員の参加する研修・会議がほぼ完全に対面形式へ戻り、公用車の稼働率が増加したためと考察できる。

以上より、今回 CO2 排出量が基準年度を超過した原因として、公用車以外での燃料の燃焼量の増大があげられる。今後も空調のより効率的な運用と、クールビズ・ウォームビズ等を推進していくことが重要である。

令和 6 年度の二酸化炭素排出量は基準年度よりも増加したため、今後も継続して計画に則した取組を強化できるよう推進し、目標排出量 (825.1[t-CO₂]) に向けて二酸化炭素排出量の削減に取り組んでまいります。

排出係数 ある活動を行った際に、どれくらいの CO2 が排出されるかを表す数値のこと。